

3. 授業改善アンケート調査結果

3-1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、平成 16 年度より、毎学期末に授業について受講生に尋ねるアンケート調査を実施している。平成 22 年度より実施方式を大幅に改訂し、全科目を対象に授業内でアンケート用紙を配布・回収する方式から、講義科目のみを対象に、学務情報システム KOAN を利用して Web 上で回答する方式に変更した。質問項目も刷新し、また英文を併記して留学生も回答しやすいようにした。なお、平成 22 年度は試行期間として、後期のみアンケート調査を実施している（アンケート回答期間：平成 23 年 1 月 17 日～2 月 14 日）。

平成 22 年度後期分の対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。なお、回収率は受講登録者数が受講者数の実態を反映していないため掲載しない。

平成 22 年度後期授業改善アンケート対象科目数・回答数

学部			大学院		
	対象 科目数	回答数		対象 科目数	回答数
基礎科目	4	90	共通科目	5	4
共通科目	3	70	先端人間科学科目	2	1
行動系科目	11	179	行動学系科目	11	22
社会系科目	16	139	社会学系科目	10	14
教育系科目	10	91	人間学系科目	7	16
グローバル系科目	17	42	教育学系科目	10	18
			グローバル人間学系科目	9	15
学部計	61	611	大学院計	54	90
計(学部+大学院)				115	701

回収結果は数値化して集計されて、自由記述分も含めて教員にフィードバックされ、個別の授業の改善に役立てられている。さらに、平成 22 年度より、アンケート結果がより授業に反映されるよう、担当講師からアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの提出を求めている。

3-2. 授業改善アンケートの結果

ここでは、平成 22 年度後期の授業改善アンケートの結果を示す。ただし、自由回答項目、授業改善アンケート自体について尋ねた項目は除いてある。

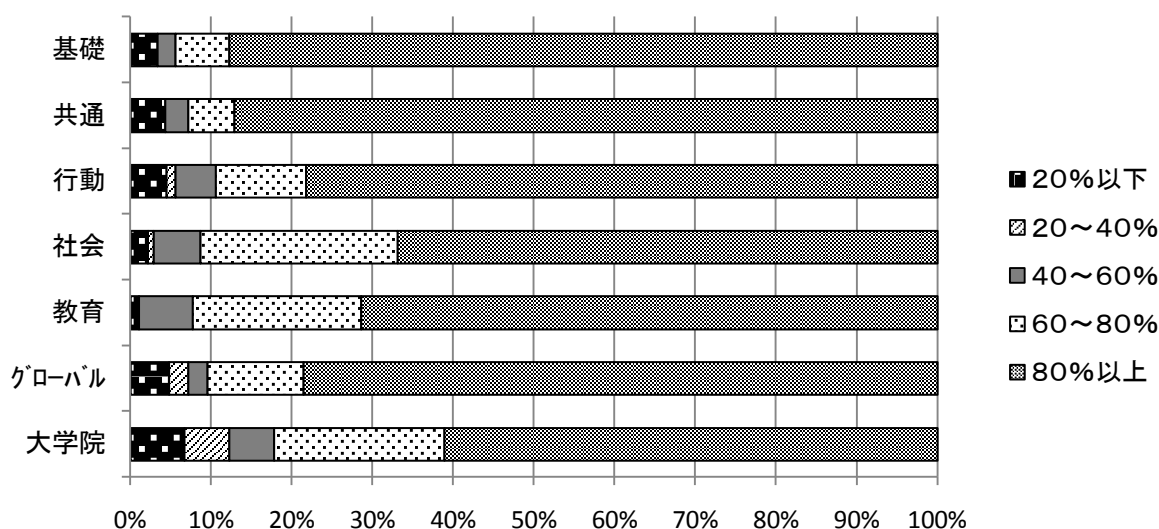
集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。「基礎」は豊中キャンパスで開講される「人間科学概論」等の基礎科目、「共通」は人間科学部・研究科の共通科目である。大学院科目については、回答数が少ないため一括して集計を行った。なお、グローバル系科目では1科目あたりの受講者数が少ないなど、各学系によって状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

平成22年度後期では、授業全体に対する評価を5段階で尋ねる設問12「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」の回答の平均値が3.95であり（数値が高いほど高評価）、いずれの科目群でも「かなり良くなかった」・「あまり良くなかった」という回答をあわせた数が全体の1割程度と少ないため、授業満足度はおおむね高いと言えるだろう。ただ、基礎科目等、受講生の多い科目では評価が低くなる傾向があり、少人数授業の方が学生の満足度は高いと考えられる。

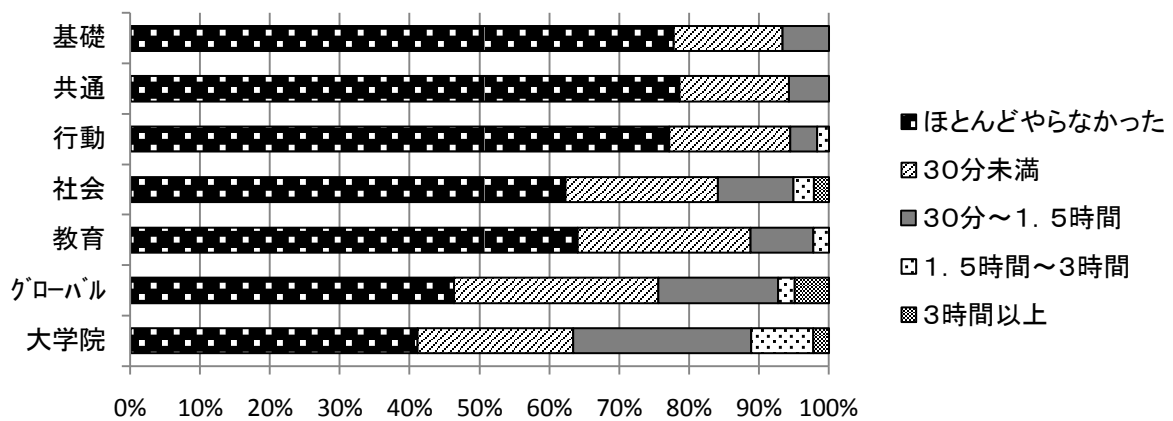
また、アンケート結果からは様々な課題も浮かび上がっている。例えば、授業の進め方で気になったことを尋ねた設問9で、「視聴覚教材が適切でない」と回答した学生が少なからず存在している。これは視聴覚教材の提示の仕方の一因があると考えられる。設問2「この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれくらいですか？」の結果からは、このアンケート調査の対象である講義科目については、予習・復習をまったくしていない学生が非常に多いことがわかる。これからの大学により一層求められるようになると考えられる単位の実質化に向けて、予習・復習を重視した授業体制を整えなければならないことが示唆される。今後、教務委員会で対策について検討する予定である。

各設問の結果の詳細は以下の通りである。

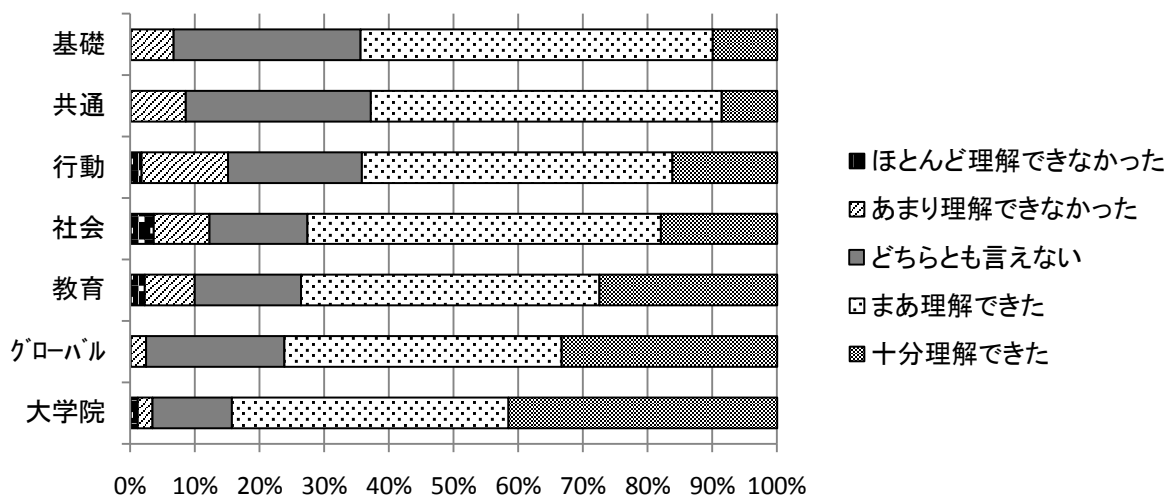
1：この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



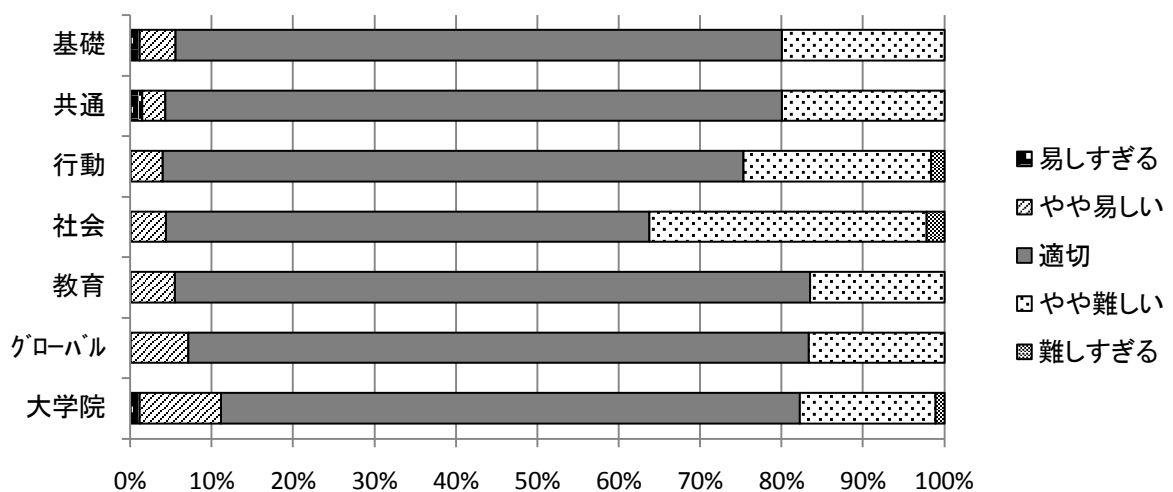
2：この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



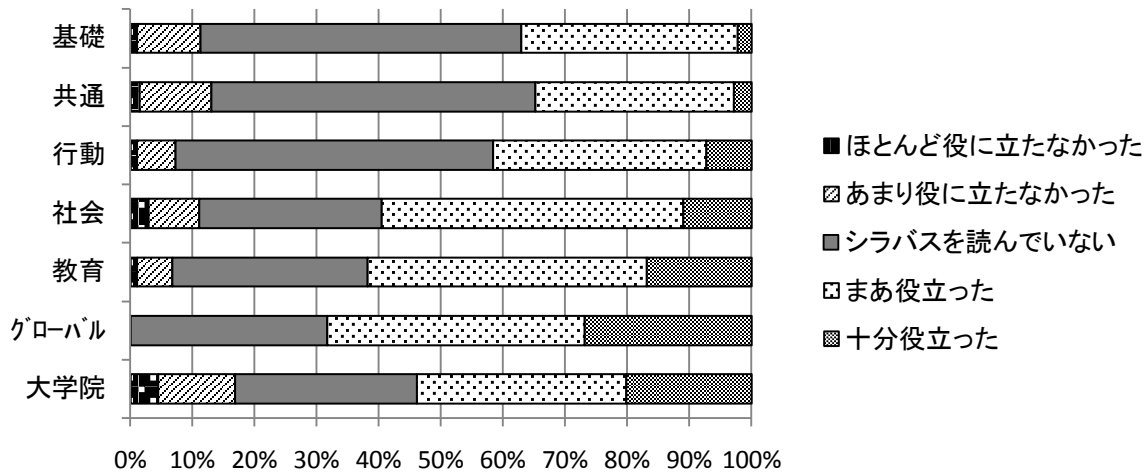
3：授業内容は理解できましたか？



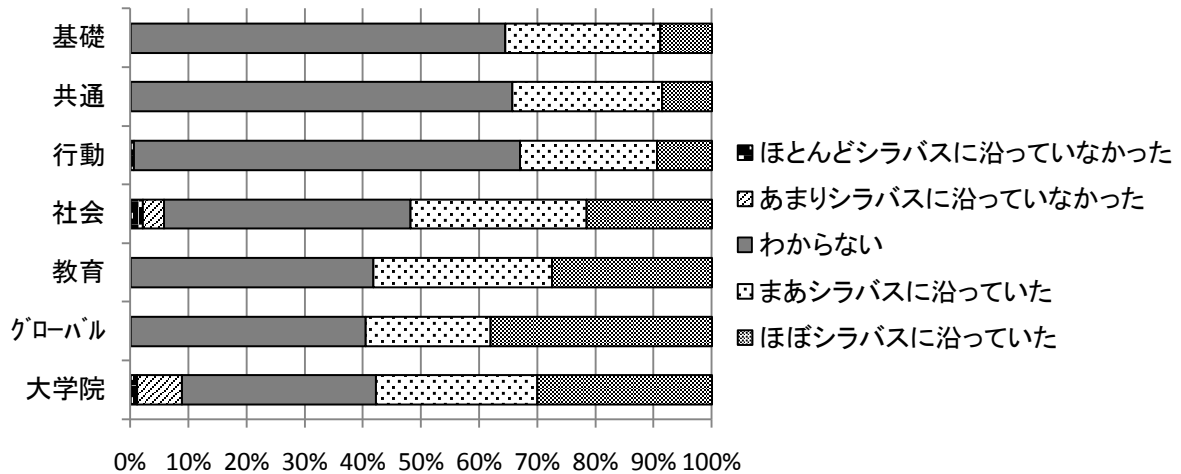
4：授業内容の難易度はどうでしたか？



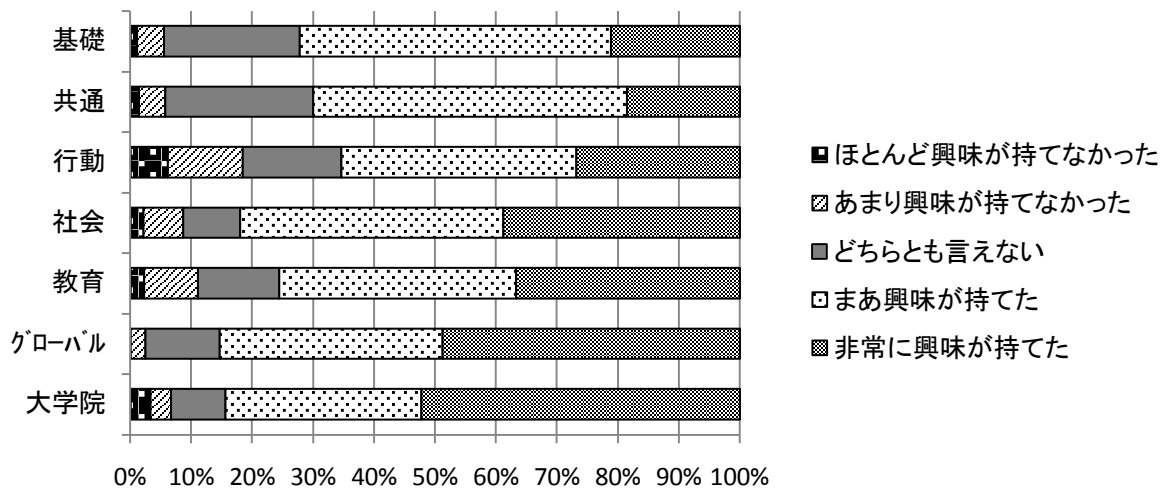
5：シラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



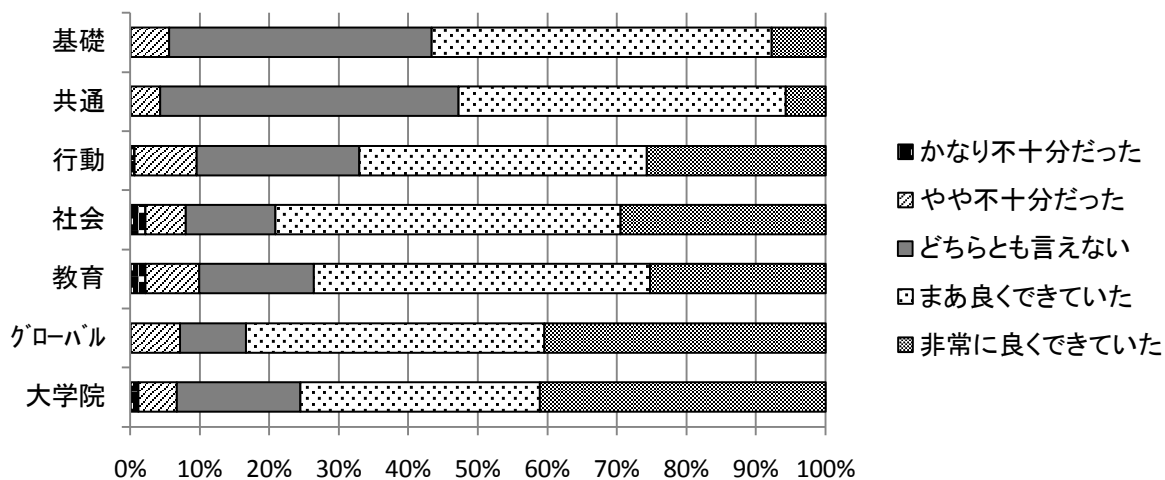
6：授業はシラバスに沿って展開されましたか？



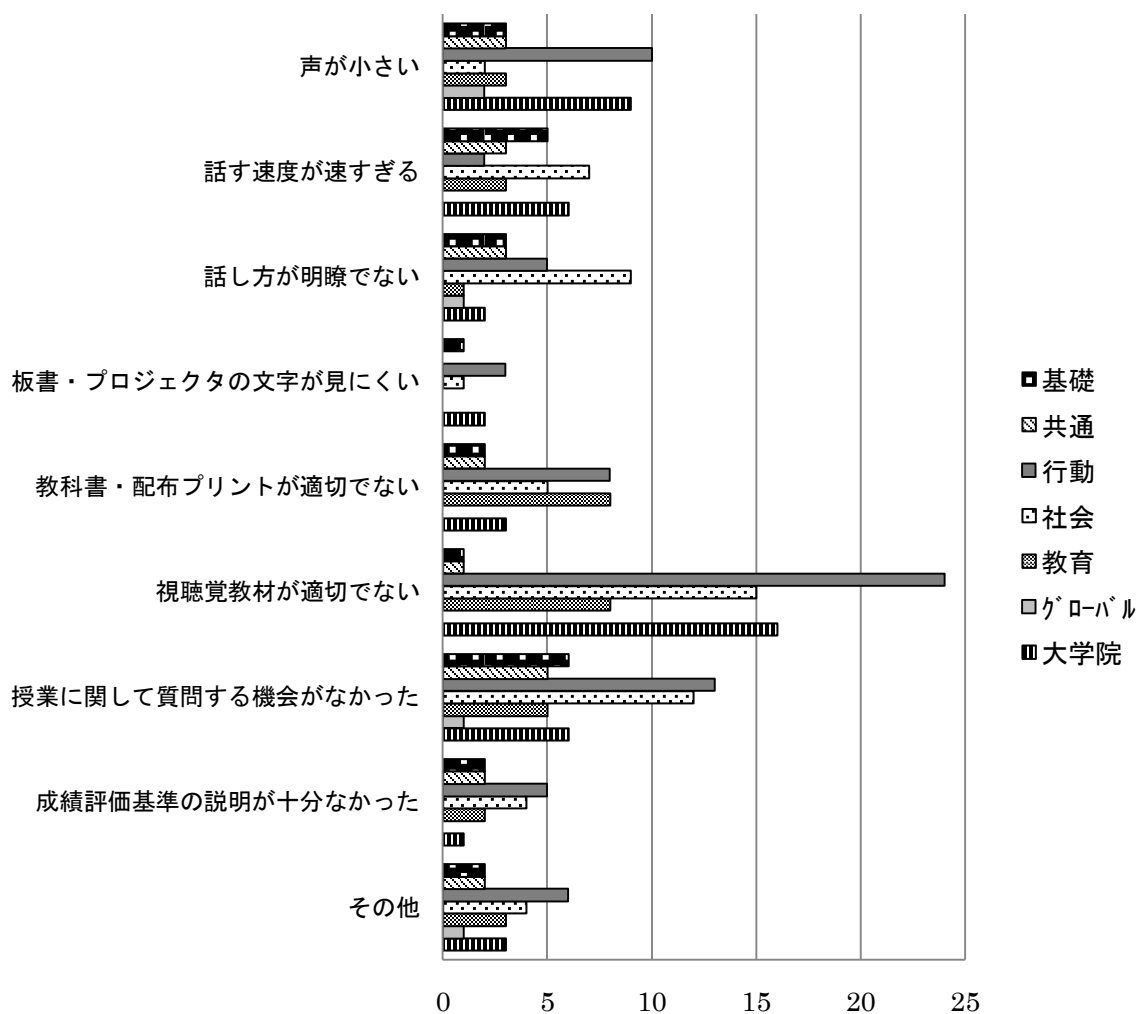
7：授業はあなたにそのトピックに対する関心を引き起こすものでしたか？



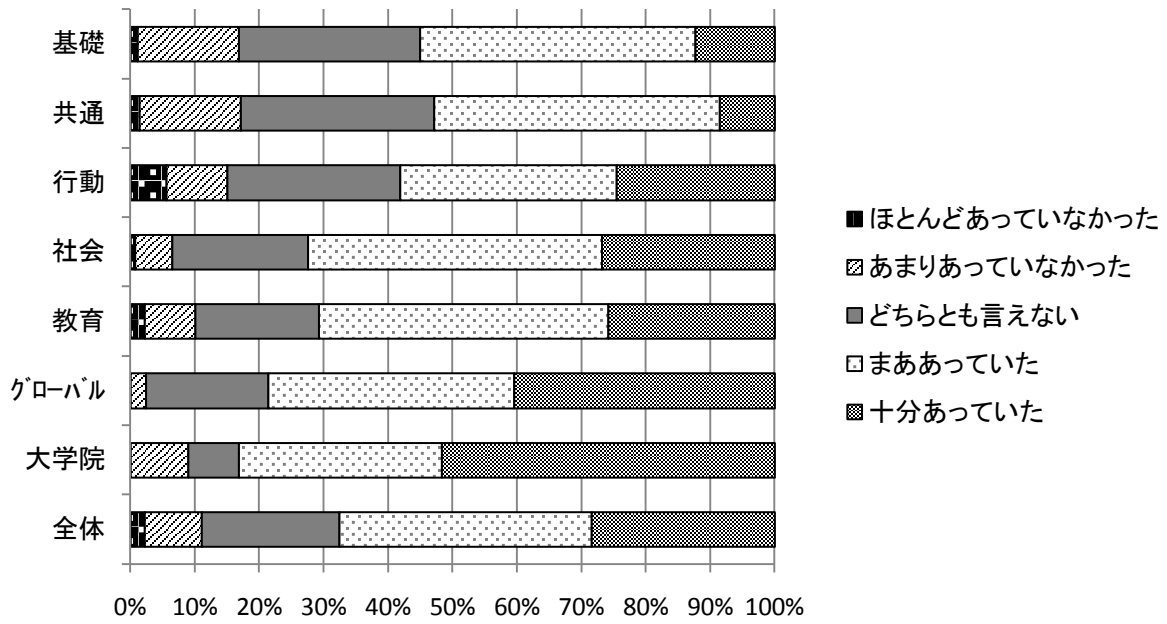
8：授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？



9：授業の進め方について、以下の点で気になったことがあれば、該当する項目にチェックを入れてください。[複数回答可] ※数値は回答数

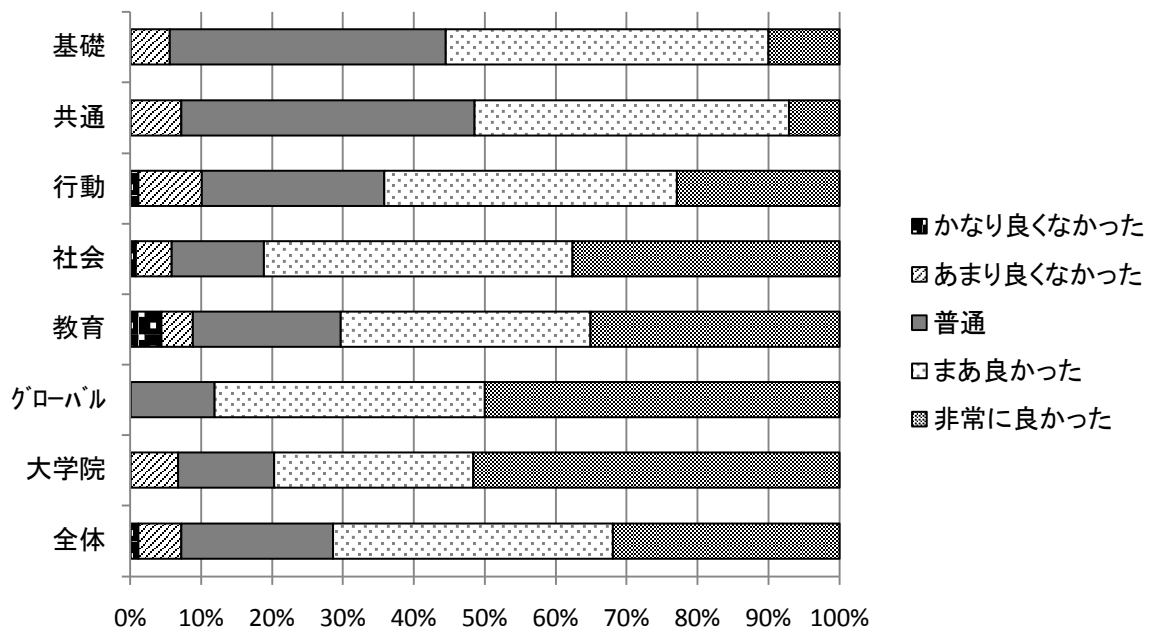


11：この授業はあなたの求めていたものにあっていましたか？



平均値：3.83 標準偏差：1.01

12：この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



平均値：3.95 標準偏差：0.93

3-3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である（教員名の五十音順に掲載）。

青野 正二
環境心理学・環境心理学特講 I
回答率がかなり低いため、全体的な傾向をみるまでには至っていないものの、個別に回答されたコメントには参考となるものがあり、それをもとに授業の内容構成を再考してみたい。

石金 直美
臨床心理面接特講 II
アンケートを寄せてくださってありがとうございます。院生さんのニーズに応えられる実習を目指し、コミュニケーションをより深く取れるよう、来年度は心がけたいと思います。手元に残る資料が何かあるほうがいいんですかね？

稲場 圭信
現代社会学・現代社会学特講
レジュメなど資料は配布せず、部分的にパワーポイントのデータをHPで公開しましたが、やはり資料を配ってほしいという学生もいるようです。検討します。難易度、内容に関しては、アンケート結果から適切だったと判断しています。

井村 修
障害児（者）心理学特講 II
アンケートの回答者はいなかったが、授業に対する感想を個別に聴取しているので述べる。この授業は障害を持つ子どもや成人が参加し、大学院生が彼らを支援しながら臨床動作法を実践的に学ぶものであり、受講者は極めて主体的に学習していたようにかがわれた。講義、ロールプレイ、支援の実際、ケースカンファレンスと多面的に学んでいただけたのではないかと思う。残念ながらアンケートに回答した者がいなくて、今後は回答をするよう授業中に依頼していきたい。

臼井 伸之介
リスク心理学・応用行動学特講 II
授業中に研究等に関するアンケートを実施したことに対して「受講生にやらせすぎであり、授業で行われるアンケートは精神的な負担である。」という厳しい意見を頂きました。私としてはこの件については例年注意し、今年度も実験参加協力願ひ2回と卒論のアンケート1回の計3回にとどめたつもりでした。それでもこのように書かれるのは、1回に複数の依頼を含める等何らかの問題があったのだと思います。次年度も2回の実験参加協力願ひと最大1回のアンケート（いずれも10分程度）は実施するかもしれませんが、それ以上には決してならないよう、また受講生

の負担増にならぬよう注意します。

安全衛生リスク管理論

この講義は高度副プログラムの終了に伴い、次年度は開講されませんが、「web システムから事前に講義資料をダウンロードなどで入手したい。少なくともすぐに web システムへ講義資料をアップして欲しかった」というご意見は、今後他講義においてできるように検討します。

老松 克博

臨床心理学特講 II

アンケートへの回答数が少なかったのが気がかりですが、否定的な内容の回答はなく、最低限の責任は果たせたかなと安堵しています。臨床心理学は各人のオリエンテーションにより拠って立つ理論的基盤が非常に異なりますので、出席者全員の期待に応えるのは難しいかもしれませんが、臨床そのものの魅力と可能性をよりリアルに伝えられるよう努めたいと思います。

大谷 順子

地域秩序論特講 II

2010 年度はまだ地域秩序論の学生がいなかったため、準備段階では、どのような受講生になるのか予測が立てにくかったのですが、予想外にいろいろな専攻の受講生たちが集まりました。それらの受講生の興味にあわせて、随時とりあげるテーマを変更しました。2011 年度からは、地域秩序論専攻の学生の研究テーマを中心にしていきます。

小野田 正利

学校経営学

この授業は、1回の授業に2コマ分(90分×2)を使って、連続して8回おこなうので、12月までに授業が終了してしまっていて、KOANで学生が回答しにくい状態になっています。このため、おそらくKOANで記入する学生は少数ではないかと思います。実際には50名ほどの受講者があり、ほぼ9割の出席が常時ありました。毎回レポート提出により評価をしましたが、授業のレポートには、この授業形態と内容について、好印象と効果をもって評価してくれる記述がめだっていました。

金澤 忠博

比較行動心理学

1時限目の授業で朝早いのか途中で脱落した人も多かったが、逆に遅刻せずにフルに受講してくれた人(ほとんどが女性)には熱意を感じることができて、こちらの主張も理解してもらえたのではと感じた。配布資料の分量が多く、消化不良になっていたのではと危惧する。映像など視覚的教材も用いるように心がけたが、もう少し焦点を絞って、質疑応答の時間を設けるなど双方向の授業にすべきと反省する。期間中、数回、感想や質問をコメント用紙に書いて提出してもらい、翌週にfeedbackしたが、鋭い質問やコメントもあり、私にとってもいい刺激がもられたが、理解を深める意味でも意義があると感じたので、今後はもう少し頻繁に実施したい。

河森 正人
動態地域論 II
全体としてよい授業であったかどうかの質問について、すべて「まあよかった」あるいは「非常によかった」の回答であった。しかし、たとえば授業の難易度について、「やや易しい」から「やや難しい」までばらつきがあった。次年度では、こうした評価を反映させ、できるだけ多くの受講者の要望に応えられるような講義内容にしていきたい。授業の進め方に対する改善点では、「質問する機会が少なかった」という指摘があったので、今後参考にしたい。
地域言語基礎 I
全体としてよい授業であったかどうかの質問について、「まあよかった」の回答がほとんどであった。難易度に関する質問では「適切」がほとんどで、また関心を引き起こす授業であったかどうかについても、「非常に興味を持てた」がほとんどであり、比較的よい評価であったと思われる。しかし、「予習・復習」があまりなされていない様子であったので、今後はこれを促すような工夫をする必要があると思われる。
地域研究特講
全体としてよい授業であったかどうかの質問について、「非常によかった」の回答がほとんどであった。授業内容を理解できたかの質問に対しては、「十分理解できた」がほとんどで、また関心を引き起こす授業であったかどうかについても、「非常に興味を持てた」がほとんどであり、全般的によい評価であったと思われる。しかし、「プロジェクトの文字が見にくい」という意見があったので、今後改善していきたい。

吉川 徹
経験社会学・経験社会学特講
おおむね事実どおりであり、改善すべき点を重点的に改善します。

木村 涼子
生涯教育学
アンケート回答者が少なく、受講生の声を十分に聞き取ることができなかったのが残念です。授業の最後に KOAN への入力をお願いしましたが、不十分であったかと反省しています。回答してくださった二名のかたは授業に熱心にでてくださっていたのでしろうし、おおむね好意的な評価であることはありがたいと思いました。自分としては、講義と受講生の発表と映像資料などを組み合わせ、起伏のある授業内容づくりをしたつもりなのですが、その点についての感想をもっとうかがいたかったです。
生涯教育学特講
アンケート回答者が少なく、受講生の声を十分に聞き取ることができなかったのが残念です。授業の最後に KOAN への入力をお願いしましたが、不十分であったかと反省しています。自分としては、講義と受講生の発表と映像資料などを組み合わせ、起伏のある授業内容づくりをしたつもりなのですが、その点についての感想をうかがいたかったです。

熊倉 博雄
生物人類学
できるだけ盛りだくさんな内容にしたいという気持ちですが、進行の速さにつながっているようです。もう少しゆとりのある講義を心がけるようにします。
行動形態学特講 II
引き続き、質の高い講義を提供していくよう努めます。

近藤 久美子
地域言語基礎 I
授業アンケートについての地域言語基礎・応用担当教員の間でアンケートが必要かどうかの意見交換がなされましたが、やはりこの結果をみても KOAN でのアンケートが必要か疑問の残るところです。授業をしている間などの話も反映されていましたが、あたらしく学ぶ外国語のばあい、週 1 回の授業では予習復習を行ってもらってもなかなか身につかないことがわかります。語学の学び方について今後カリキュラム的にもいろいろ工夫が必要と思います。

近藤 博之
教育動態学・教育動態学特講
授業内容の理解が高まるように、もっと頻繁に受講生の意見や感想を聞きながら進めたいと考えています。

斉藤 弥生
比較福祉論 I
回答してくれた参加者からは「良かった」と言ってもらえたので嬉しく思いました。逆に回答数は少なかったため、不満が多かったため回答がなかったのかと気になるところです。本講義は 23 年度は不開講となりますが、24 年度にはさらに内容を充実させていきたいと思っています。

佐々木 淳
臨床心理学 I
本年度も引き続き体験的理解を促進することを目的として、認知行動療法の基礎的な学習のためのワークを取り入れたが、難易度や理解度の評定から、目標は達成されたと考える。ワークの回数が適当であるかについて、授業内で挙手を求めたところ、現在の回数程度がニーズに合うことがわかったので、来年度も 10 回程度のワークを取り入れながら授業を構成する予定である。

佐藤 眞一
心理・行動科学入門
アンケートに回答している学生が極めて少ないので、代表的な回答ではないように思う。今後は、さらに回答に協力してもらえるように働きかける必要があるであろう。一般教育の心理・行動科学なので基礎的な内容としたが、専門的な内容を期待していた学生がいた。この点は、ガイダン

スで授業の位置づけをきちんとしていただきたい。小テストや意見交換、課題などが必ず必要なのかも含めて再考したい。

臨床死生学・老年行動学

アンケートに回答している学生が極めて少ないので、代表的な回答ではないように思う。今後は、さらに回答に協力してもらえるように働きかける必要があるであろう。4名で担当するオムニバス授業なので、連携をより良くする必要があるであろう。

澤村 信英

国際協力学 II

英語での授業であるにもかかわらず、比較的好意的なアンケート結果が多いので安心した。ただ、もう少し難しいぐらいの内容にしたほうが、受講生にとっては学習の効果が高まり、さらなる成長が期待できるとも考えている。

国際協力学特講 II

受講生により当該分野の知識量が異なるため、基礎的知識のある学生には少々易しかったようだ。すでに基礎力のある学生を想定し、授業前に自己学習ができるよう、論文中心のリーディング・アサインメントを随時出すなどの工夫をしたい。また、取り上げる事例をアフリカだけに特化するのではなく、受講する留学生とのインタラクションを増やすなど、授業の展開をより実践的なものにもすることも検討したい。

篠原 一光

適応認知行動学・適応認知行動学特講 I

今回の講義より、講義終了時に講義内容についての質問やコメントを求め、わからない点や疑問点を聞くようにし、次回の講義時にその質問に対応して補足説明をするようにした。これにより、ある程度受講者の疑問点に答えることができたと考えているが、説明が要領よくできず相当時間を使ってしまったという面に改善が必要である。また、内容的に講義だけでは不足で、何らかの実習課題が必要だったということがアンケートや講義時のコメント内容からも理解できる。この講義の内容に則し、かつ、多人数の受講生が行うことができる実習としてどのようなものがあるかについては決定的な解決策を考えることが難しいが、次回は何らかの形で実習的内容を取り入れるようにしたいと考える。

志水 宏吉

学校社会学特講

授業に対する満足度は比較的高く、うれしく感じた。

学校社会学

この授業に対する受講生の評価はかなり厳しいものであった。シラバスの内容・教科書の使い方等で、反省すべき事項があることが改めてわかった。今後の授業改善の手がかりとしたい。

志村 剛
行動生理学・行動生理学特講 II
授業目的はおおむね達成できたと判断する。授業内容について、テーマの選択自体は適切であったと考えられるが、専門的知識をより平易に解説できるよう、今後検討していきたい。授業方法に対する不満も散見されたが、なるべく双方向性の授業となるよう、工夫をこらしていきたい。受講生の積極的な参加を大いに期待する。

鈴木 広和
地域言語基礎 I
熱心な受講生が多く、教員のほうが刺激を受けたくらいでした。受講生の到達度はかなり高かったと言えます。
地域言語基礎 II
今年度は「楽しく学ぶ」を基本方針としました。来年度はもう少し習熟度を深めることを目指します。
地域言語基礎 II (ハンガリー語)
今年度は実用性を重視しました。

大坊 郁夫
社会心理学
授業の進度、配布資料と提示資料には、できるだけ「見える」ように用意したのですが、情報量が多いとの学生の反応です。もっと代表例だけに絞って示すべきかと考えています。ただ、以前からすると、このような学生の反応は多くなってきているようにも思っています。なお、用いている部屋が縦長であることで、後ろに座っている学生には、スクリーンがよく見えないようです(部屋の奥行き割に、スクリーンが小さいようです)。
対人社会心理学特講 II
受講生に対して回答者はごく少なく(受講生自体多くはないですが)、これは、学生にとっては回答しにくいのではとも思います。その内容には、評価基準があらかじめ明らかではなかったとありますが、研究室のガイダンスでは毎年、説明をしているはずですが。これを受けて、新年度のガイダンスでもさらに詳しく説明をいたしました。

辻 大介
コミュニケーション社会学
総体的に高評価で、授業の意図は十分伝わったように思います。一方で、難易度については「やや難しい」が30%弱あり、もう少し工夫する余地もありそうに感じました。ただ、受講生がちょうど適切と感じるよりはやや難しいくらいの方が教育的効果としてはのぞましい面もあり、判断の難しいところです。また、2名ではありますが、「質問する機会がなかった」という回答もありました。出欠調査をかねて質問を記入できるシートを配り、その中からいくつか選んで次の授業の始めに答えるようにはしていたのですが、毎回70~80名の出席する授業ですので、すべてには

答えきれません。何か別の方策も考えてみたいと思います。

堤 修三

社会保障政策論 II ・社会保障政策論特講 II

本当は難しい内容ではないのですが、ある程度の問題意識がないと難しいと感じる人もいるかもしれませぬ。これからも、社会の仕組みについて、テレビなどの一面的な報道では分からない問題をどう考えればいいか、講義していききたいと思います。

友枝 敏雄

理論社会学

できるだけ、シラバスにそくして授業するようにつとめたので、その点はよかったです。授業の難易度も適切だったようで嬉しく思います。ただ授業の内容が、当然といえば当然ですが、社会学のことですので、社会学に関心のない学生もしくは社会学を専攻しない学生には、あまり興味深い授業ではなかったのかもしれないかもしれませんね。さらに工夫した講義をしていくつもりです。

社会学理論特講

院生諸君は、やはり向学心が高いのでしょう。言い換えれば授業へのモチベーションが十分にあるのでしょう。私が予想した以上に、高評価でした。講義の難易度も適切だったようで嬉しく思います。さらに工夫して、よい講義をおこなっていききたいと思います。

中川 理

政治経済の人類学

授業アンケートの結果を見る限り、全体としては授業に対して好意的な意見が寄せられているように思う（ただし、回答率から考えて代表的な意見であるかは分からないが）。そのなかで、授業の進め方について「板書・プロジェクタの文字が見にくい」と考える人が数名いる点が、反省材料であるかと思う。授業ではスライドを多用したが、スライドの情報量が多いためノートを取りながら授業を聞くのが学生にとって難しいケースもあったかもしれない。スライドの使い方についていっそうの工夫を考えたい。

政治経済の人類学特講

回答数が少ないため全体的な傾向についての判断は難しいが、「政治経済の人類学」のアンケート結果と合わせて考えると、比較的好意的に受け止めてもらっていると理解した。そのなかで、TAをよりうまく授業の進行に生かして欲しいという意見は今後の参考としたい。本年度は資料配布とリアクションペーパーの回収を主に行ってもらっていたが、これらをよりうまく行うとともに、その他の点でTAを活用できるか考えたい。

中川 敏

文化人類学・人類学理論特講

1割程度の回答率なので、確たることは言えないが、努力目標・期待をうわまわった結果と思う。

中村 高康
教育と社会
回答者数が少ないので一部の受講者の意見の反映と見るべきかとは思いますが、良好な回答が多くひとまずほっとしています。今後も授業改善につとめたいと思います。

中村 安秀
現代社会を読み解く「ボランティア論」(共通教育科目)
出席率が高く、比較的高い満足度であった。オムニバス形式のため、教官が毎回変わることを危惧していたが、「大学外から来てくださった特別講師の方の話を聞いたのがよかった」、「ボランティアという枠組みを超えた人生について考えられる良い機会となった」という自由記述は、講義の企画者としてうれしいコメントであった。遅刻に関しては、評価に反映させているが、受講者の態度については評価できていない。受講者が多いという困難さはあるが、来年度は受講態度についても留意していきたい。
医療通訳とコミュニティ
2010年度に新規に開講した科目で、他大学やNGOなどの先生方を招いてのオムニバス形式でした。「授業講師・内容は最高で受講生は最低!」というコメントが最も印象的でした。私からみても外部講師の先生方に素晴らしい講義をしていただいたので、次年度はぜひ熱心な学生に多く受講してもらえよう広報に務めます。また、TAのトレーニング不足というご指摘を重く受け止め、次年度の改善に努めたいと思います。

中山 康雄
認知と論理
アンケートには、授業改善の提案などがなされており、毎年度同じような指摘がなされている。授業のプレゼンテーションに工夫が必要なのかもしれないが、なかなか思ったようにうまくいかないのが現状である。

服部 憲児
高等教育論特講
ほとんど全ての項目で高評価であったので、安心しました。受講生が5名だったこともあり、教員と学生(院生)の意思疎通も円滑に行われたことが大きく影響しているのだと思います。もしかしたら、いくつかの工夫(①共通教育で開発している対話型の授業手法を応用したこと、②授業の内容・方法・進め方を明示するとともに、受講生の意見を聞いて調整したこと、③受講生の属性や興味関心と関係するテーマを設定したこと)も功を奏したのかもしれませんが。唯一気になったのは、問2で予習復習をほとんどやらなかったと回答した人がいたことですが、演習形式を取り入れているので、これは謙遜ではないかと思います。

檜垣 立哉
基礎人間学・現代思想論特講
内容的には満足してもらっているようなのでよかった。授業の進め方で小レポートを書いてもらったが、それがどう影響しているのか知りたい。基本的に哲学系の授業なので、パソコンその他の器具を使うものではないため、どのような工夫がありうるかむしろ学生からきいてみたいとおもった。

福岡 まどか
実践的文化交流 II
あらかじめ全体像を示し、徐々に段階を踏んで習得する方がたしかに実技の習得のやり方としてはわかり易いかもしれませんが。ただ、この授業ではあえてそういうやり方ではなく、自由に部分的にでも何か舞踊の特徴がつかめることを目指しました。外部講師の先生にも自由にやっていただいたので、少しわかりにくい点があったと思います。貴重なコメントをいただいたので、今後の授業の進め方の参考にしたいと思います。
地域知識論 II
人数が少なかったため、プレッシャーもあったと思いますが、頑張って授業に参加してもらえたことが嬉しかったです。教室の設備などの関係で映像資料が自由に使えなかったのが残念でした。

藤岡 淳子
教育心理学 I
1限の講義で出席をとっていなかったにも関わらず、出席者はそれほど減らなかった。活発な意見表明もあり、講義の初期の目的を達成できたと考える。教室にプロジェクターが設置されていないため、PPTを映写するのに時間と手間を要したこと、VTRを映写するテレビ画面が小さくて見にくかったことを改善したい。

藤川 信夫
教育人間学 I・教育人間学特講 II
プレゼンテーションの仕方（文字の大きさ、発話のスピードなど）には、反省すべき点があるように思う。今後、改善を試みたい。

宮原 暁
国際フィールドワーク論 I・フィールド調査・評価入門
貴重なご意見をありがとうございました。少数意見も含めて皆様のご意見を、来年度のリニューアルに活かしていきたいと考えています。 フィールドワークの実践と倫理、その背後にある思考については、単に研究手法としてのフィールドワークのみならず、様々な背景を持つ人たちの間でのコミュニケーションを可能にするツールです。この授業では、総論的な手法に関する解説が主でしたが、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）では、より学生、大学院生個人個人のニーズに即したコーチングも行っていき

たいと考えております。豊中キャンパス・ストゥーデントcommons 3階のGLOCOL FIELD0の自主学習スペース SUTUDIO もぜひご利用ください。
超域地域論 II・超域地域論特講 II
貴重なご意見をありがとうございました。皆様のご意見を、来年度の講義に活かしていきたいと考えています。 昨年度の講義では、第1セメスターの講義でやや理論的に傾斜しすぎたきらいがあります。来年度は、地域研究の持ち味である個別事例にさらに配慮して、人と場所との関係、および文化の革新性について、皆さんとともにさらに考えを深めていきたいと思っております。

牟田 和恵
ジェンダー論
おおむね、授業満足度が高く、授業準備についても評価を高い評価を得られたことは良かったが、他方、質問機会が少なかったとの指摘があった。講義の授業なので、受講者の理解度や受けとめ方を授業にフィードバックできるよう、毎回コメントカードを書かせ、それを次回以降の授業内容に役立てることはできたと考えているが、教室の現場で直接受講生の声をきくことについても、講義であれ、もう少し工夫していきたい。
ジェンダー論特講
回答人数は限られているが、全般にわたって高い授業満足度・評価を得ることができた。今後もさらに、受講生の関心に応られるよう、努力したい。

村上 靖彦
基礎人間科学概論
テストの指示が明確でなかったようなので来年はさらに明確にするようにします。
表象・記号学特講
この授業は、自分の現在行っている内容で授業をするため、どうしてもシラバス執筆時と内容が変更されます。その点、(再来年度からは)シラバスの記載に注意します。

森川 和則
基礎心理学
授業評価のもっとも適切な指標である「7:授業はあなたにそのトピックに対する関心を呼び起こすものでしたか?」の回答平均値は4.81であり、「8:授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか?」の回答平均値は4.81であり、「12:この授業は全体として良い授業だったと思いますか?」の回答平均値は4.69であった。全体として学生の評価は非常に良かったと言えよう。ただし、この科目は例年60名前後が履修し、昨年度までの紙媒体のアンケートでは50名前後が回答していたのに、KOANによるアンケートではわずか16名しか回答がなかった。他の科目でも同様の傾向であろう。KOANによるアンケートの有効性には疑問がある。
基礎心理学特講 II
授業評価のもっとも適切な指標である、「12:この授業は全体として良い授業だったと思います

か？」の回答平均値は5.00であった。全体として学生の評価は非常に良かったと言えよう。ただし、履修者5名中、回答したのは1名のみであったので、KOANによるアンケートの有効性には疑問がある。

森田 敦郎

人間と文化・人間と文化特講

解答からは、授業内容についての理解度がかなり高いことが伺えた。このことは、試験の成績とも一致していた。授業ではPPTなどを多用したが、そのことも高い理解度に貢献したものと思われる。